

～緑と土と太陽と～

佐世保市立港小学校



所在地：佐世保市天神町1603番地

児童数：316名

学級数：14学級

1 テーマ

～緑と土と太陽のもと、「かがやけ港っ子」を育成する～

2 目的

- (1) 「確かな学力の保証に努め、学びの目的と動機付けを重視する教育の実践」
 - 基礎的・基本的内容の定着（ねらいの絞り込み・家庭学習の徹底）
 - 子供が躍動する授業実践（問題解決的な学習の定着・言語活動の重視）
 - 特別支援教育の視点に立った指導の充実（一人一人の子供のニーズに応じた支援のあり方）
- (2) 「感じる心と動く体を育てるための、体験的学習の実践」
 - 心に響く体験的な学習の実践（全教育活動での実践力強化）
 - 地域の良さを体感できる体験活動の実践（地域の教育力の活用と郷土愛の育成）
 - いのちと触れ合う体験活動の推進（花や野菜の栽培計画・実践）
- (3) 「心を潤す読書教育と効果的・効率的な環境整備の実践」
 - 読書活動の推進（朝の読書と家庭での読書の啓発・月読書目標10冊）
 - 落ち着いた環境のための整理整頓・掲示の充実（掃除の徹底・教室の効果的な用具配置）

3 実践内容

（対象学年・時期・活動場所・活動内容等を具体的に記入する）

- (1) 「確かな学力の保証に努め、学びの目的と動機付けを重視する教育の実践」
 - 基礎的・基本的な内容の充実と学力向上

校内研修のテーマである“互いに認め合い、高め合う子供の育成”と関連させ、対話活動の充実を大きな柱として授業改善に取り組んだ。今年度は算数の授業の中で、対話活動を充実させることにより、互いの肯定感を高め合い、意欲的に学習に取り組む児童

の育成を目指してきた。

① 朝の時間の活用

スキル学習（毎週月曜・金曜と第4火曜の朝15分間）を行い、「書く力」「計算力」の向上を図った。また、朝の読書（毎週月曜の朝15分間）を実施し、読解力の向上を図った。スキル学習は、基礎基本の定着に欠かせないものである。繰り返し練習することで着実に力を付けつつある。

② 知能検査の実施（2学年 6月5日）

特別支援教育の視点に立ち個に応じた指導の充実のため、2学年で知能検査を実施し、実態把握を務めた。家庭と連携して支援を進めるためには客観的な資料が必要となる。その資料として知能検査の結果は大いに役に立った。家庭と連携した支援を行い、確かな学力保障につなげるため、面談などでその結果を活用した。

③ 標準学力調査の実施（全学年 12月10日）

国語科と算数科の標準学力調査（東京書籍）を全学年で実施し、学習内容の定着度や本校児童の課題を把握した。その結果をもとに、次年度の指導改善への手がかりとした。

④ 家庭との連携

児童の家庭における学習習慣の確立のため、家庭学習のすすめを配布した。学んだことを家庭でも復習することで、基礎基本の確実に定着に努めた。

(2) 「感じる心と動く体を育てるための、体験的学習の実践」

- 体験を通して学ぶことは港小学校の大きな特色である。今年度も、地域の方はもちろん、関係機関と協力して、充実した体験学習ができた。また、単に体験するだけでなく、体験したことから考えたり、新たな課題を見出したりするような学習展開を工夫したことにより、問題解決的な解決力、表現力などを高めることができた。

① 「港っ子ば守ろう隊」の方々とのふれあい（全校 6月21日 体育館）

各地区公民館・老人会等に呼びかけ、保護者と共に「港っ子ば守ろう隊」を結成し、多くの方に児童の安全な登下校を見守っていただいている。その守ろう隊の方たちを学校にお招きし、感謝の気持ちを伝える集会を行った。今年度は、地域の方14名の方に参加いただき、交流する機会を設けた。児童は、自分たちの多くの地域の方に支えられていることを実感し、地域への愛情を育てることにつながった。



② 平和集会（全校 8月9日）

8月9日、純心大学で平和活動取り組んでいる学生3人を講師として招き、平和学習を行った。原子爆弾投下についての具体的な話とともに、現在取り組んでいる平和活動について紹介していただいた。戦争の恐ろしさや平和の大事さを学ぶことができたことはもちろん、これから平和を守っていくには、まずその問題に気付き、知ろうとする姿勢が大切であることを3人の学生の姿から学ぶことができた。



③ 轟湾の環境整備（3年 通年）

身近な環境問題として轟湾の環境を取り上げ、学習を行った。総合的な学習の一環として地域の公民館長さんをお招きして、昔の轟湾の様子について話を聞くことができた。

昔は、泳げるほど美しかった轟湾だが、時代の変化とともにその姿も大きく変化していることを知ることができた。

轟湾の環境学習をもとに、エコプラザから講師をお招きして、海洋汚染についての説明を受けた。その際現在問題になっているマイクロプラスチックの問題を知り、自分たちの生活と海の汚染の問題が関連していることを学ぶことができた。



2つの学習を受け、実際に轟湾のごみ拾いを実施した。拾ったごみを分別し、どのようなごみが多いのか分析することで、生活ごみと海洋汚染の関連性に気づくことができた。これらの活動により、自分が課題に感じたことについて“港っ子発表会”で他学年の報告を行った。環境についての課題意識が高まったことはもちろん、今後の身近な環境について深く知りたいという意欲を高めることにつながった。



④ 福祉体験(4年生 通年)

4年生は様々な立場の人と関わりもつ力を身に付けるため、福祉体験を行った。社会福祉協議会の方に協力いただき、車いす体験、高齢者疑似体験活動を行い、いろいろな立場の人のことを考える機会をもった。車いす体験では、少しの段差でも乗り越えることが困難なことや車いすを押す側としてどのようなことに注意するとよいか知る良い機会となった。また、高齢者疑似体験活動では、普段の上り下りしている階段がなかなか見えにくく、時間がかかることから、実感を伴った立場理解につながった。



⑤ EM菌を使った土作り(5年 通年)

地域の方に協力を得ながら、5年生を中心に、EM菌を使った土作りを行った。EM菌と糖蜜や米ぬかなどと給食の残飯として出た野菜等の生ゴミを混ぜ合わせ、自然に優しい土作りを行った。

今年度はEM菌で作った土で大根の栽培を行った。今年度も野菜が大きく育ち、子供たちも驚いていた。収穫した大根、協力してくださった地域の方とともに調理をし、“大根パーティー”を開いた。収穫の喜びを味わうとともに、地域の方と協働して栽培活動に取り組むことで地域理解へとつながった。



(3) 心を潤す読書教育と効果的・効率的な環境整備の実践

○ 読書活動の推進

本校では、昨年度から読書を学力の向上を支える一つの基盤としてとらえ、読書教育の充実に努めている。今年度はより全校で読書活動を推進するために取り組んできた。週2回、学校司書の配置もいただいたので、学校司書と連携しながら図書室の環境整備や児童の指導にも取り組んできた。昨年度と同様に、月に読書目標10冊を設定して年度当初から児童に指導を行ったり、その目標を達成した児童には、委員会から一度の貸し出し冊数を増やす特典を与えたりするなど工夫して取り組んだ。また、家庭向けに図書新聞の発行もあった。

取組の結果として、1月末の貸し出し冊数が、昨年度はおよそ 23,486 冊に対して、今年度はおよそ 28,332 冊になり、成果となっている。

4 成 果

確かな学力の保証に努め、学びの目的と動機付けを重視する教育の実践について

- ・ 各種検査の実施による実態の把握とそれに合わせた習熟度別学習や個別指導の充実により、学力の向上が見られた。
- ・ スキルタイムの実施により、基礎基本的な学習事項の定着につながった。

感じる心と動く体を育てるための、体験的学習の実践」について

- ・ 体験活動を仕組んだことで、自ら問題を見つけ解決していこうとする問題発見の力が身に付いた。
- ・ 問題解決的な学習活動を基盤とすることで、他の人と協働して学ぶ姿勢・主体的に学ぶ姿勢が見られた。
- ・ 地域の人と交流して学ぶ機会を設けたことで、地域理解と地域に対する愛情を育てることができた。

「心を潤す読書教育と効果的・効率的な環境整備の実践」

- ・ 読書量の増加が見られ、読解力の向上につながっている。
- ・ 静かに落ち着いて過ごす学校環境をつくりだすことにつながった。そのことが安心、安全な学校づくりにつながっている。

5 今後の課題

確かな学力の保証に努め、学びの目的と動機付けを重視する教育の実践について

- ・ スキルタイムの内容を再検討する必要がある。根気強く学習する姿勢、思考力を更に高める指導が必要である。

感じる心と動く体を育てるための、体験的学習の実践」について

- ・ 総合的な学習の時間と関連させ、体験活動の目標と内容を精選する必要がある。
- ・ 地域との連携を更に深める必要がある。

「心を潤す読書教育と効果的・効率的な環境整備の実践」

- ・ 読書量の増加を読解力向上に更につなげたい。学習活動や調べ学習とリンクさせ、効果的な読書の在り方を探る必要がある。